

機動戦士ガンダムSEED THE DESTINY WAR

桐生 昭雄

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

さあ、誰がこの世界を哀れと思っただろうか。さあ、誰が戦争を好き好んでするだろうか。

今や戦争に関してなにも理解できない、平和ぼけした日本にはわからない、少年の物語。

CE・73。これは、明日の未来のために、やむなく戦争に身を投じた少年の物語。

そして、これは未来に、なにを残せるだろうかー。

# 目次

人物設定（最初だけ）	1
序章 著者の前書き	6

## 人物設定（最初だけ）

### 人物設定

ミケル・グラード

第2世代コーデイナーター

16歳 男

出身地 不明

乗機 G A T | X 1 0 5 R 3 ストライクE3rd

明日の生活のためやむなく戦争に身を投じた少年。何のためかこの世に欺瞞を感じ、人の言うことにも嘘がわかってしまう。それゆえ誰も信用できない。今傭兵として戦っているが、信用できなかつたら雇い主でさえ殺すという行為にも出ている。

「著者」（作品内では私）

ナチュラル

年齢不詳 男

出身地 日本

戦場でいつも取材しているフリージャーナリスト。ジャーナリストだが、今のマスコミを自分含みで全面的に批判している。事実を事実として伝えることが信条である。今はフリーだが、たまに仕事上の提携の催促が来ている。ミケルの最初の理解者。

《Z A F T 正規兵》

リチャード・マックイーン

コーデイナーター

17歳 男

出身地 ユニウス市  
乗機 ザクウオーリア

成績21位の惜しい優秀生徒。それゆえ負け犬意識がいつも頭にある。アーモリーワン事件の後、ミケルと良く絡むが、年齢に合わない傲慢な性格のため、生理的に受け付けられない。ミネルバとは別の隊の所属。

芹那

コーディネーター

17歳 女

出身地 マイウス市

乗機 ザクウオーリア

自称ミケルの理解者かつ恋人。リチャードと同じ隊の所属だが、ミケル同様生理的に受け付けていない。彼女もなぜか感受性が高く、ミケルと「著者」以外誰も信用できない。たまに取る独断行動もそのためである。

ミツチャー

コーディネーター

22歳 女

出身地 アーモリーワン

乗機 ザクフアントム

リチャード達の隊の隊長。穏やかな性格で、いつも見守る的な役割。ミケルに関して、すこし知っていることがあるらしい。

メイザー隊

メイザー・バックナー

戦闘用コーディネーター

19歳 男

乗機 ゲイツR

アーモリーワン警備の任務を負った隊長。だが事件において、脱出したカオスガンダムへの攻撃を受け戦死（した感じがしたが）。

マシユー

コーディネーター

16歳 男

乗機 ゲイツR

メイザーの部下。出撃前にアウルに射殺される。

サキヤマ隊

サキヤマ

コーディネーター

30歳 男

乗機 ガズウート

アーモリーワン警備の任務を負った隊長。ガイアガンダムに倒されたが脱出し別のガズウートに乗り込んだがプロトカオスとともに撃破される。

ナスカ級ガンザス

セルフィード

コーディネーター

47歳 男

ガンザス艦長。天空の宣言以降ミケルを付け狙うようになる。

カイン・アベル（双子、男）

戦闘用コーディネーター

乗機 カイン：ザクフアントム      アベル：ZGMF-X222  
イカロス

コーディネーターきつての双子。「石火のカイン」「業火のアベル」という二つ名がある。天空の宣言以降ミケルを付け狙うとともに、ジャンク屋組合への攻撃も行う。

ペリー

ナチュラルクロン 男

出身地 メンデル

乗機 ザクウォーリアオリジナルカラー

誰も知らないが、スーのクロンである。攻撃的性格を除いて本人に似せられているため、戦闘は強いが、血に飢えるということは一切ない。あまり感情がない感じ。

### 《地球連合》

第18独立作戦群（ファントムペイン） 部隊名ミドガルド

マツギネス

ナチュラル

47歳 男

階級 中佐

乗艦 ガーティ・ルー級オネイロス

ファントムペイン部隊の隊長。主に傭兵狩りを行っている。かな

りのセクハラ魔人。

部下のことを何とも思っていない。

白井 久作

ナチュラル (ブーステッドマン)

推定18歳 男

階級 中尉

乗機 G A T - X 1 0 7 ストライクシリウス

ミドガルドMS隊リーダー。かなりの戦闘訓練施されていたので、

白兵戦は当然強い。

仲間思い。

奈津美・シユナイダー

ナチュラル (自然発生天才型)

17歳 女

階級 少尉

乗機 ウィンダム

ミドガルドMS隊エース。コーディネーターにたいして特に恨みとかはない。誰かのために戦っているという。

ドラス

ナチュラル (ブーステッドマン)

24歳 男

階級 少尉

乗機 ウィンダム

ミドガルド隊先鋒。傭兵に家族を殺された恨みがある。



## 序章 著者の前書き

お読み頂く前の注意

物語を読む前に、まず前書きを読んで頂きたい。これは伝記の類の物なので、はつきり言って著者の主観が入っている。まずこのことを先にお詫びしたい。さらにもう一つ、これは特定個人を称賛、卑下するものではないことを言っておく。これらの注意をよく意識してお読み頂ければありがたい。

前書き

ファーストコーディネーター、ジョージ・グレン（以降GG）の登場以来、この70年間大きな変化が現れた。例えば遺伝子学の急激な進化、これによるコーディネーターの増加、それにもなう反コーディネーター組織ブルコスモスの暗躍、GGの暗殺、コーディネーター達の国家建設、地球連合の誕生など、挙げるだけできりが無い。それだけですめばよいが、反コーディネーターネガティブキャンペーン、経済制裁、そして、コーディネーター国家いわゆる「プラント」が政治結社黄道同盟を改新した国軍に近い義勇軍「ZAF T」を結成。連合はそれに対して、プラントのコロニー「ユニウスセブン」への核ミサイル発射で答えた。

その結果皆様ご承知の通りだが、C.E. 70、オペレーションウロボロスの発動にともない、前代未聞の戦いが幕を開けた。連合の行いへの報復として、ZAF Tは地球中を蹂躪し続けた。その原因として、ZAF Tが新兵器「モビルスーツ」を採用したことや、核エネルギーを遮断するニュートロンジャマー（以降NJ）の開発、使用等が挙げられた。

1年後、本来ならありえない変化が発生した。オニール型コロニー「ヘリオポリス」にて、ZAF Tが「GAT-X」シリーズを強奪しようとした時、当地に居住していたコーディネーター「キラ・ヤマト」の活躍により、GAT-X105ストライクの強奪に失敗したばかり

か、黄昏の魔弾ミゲル・アイマンの戦死、もう一人のキーパーソン「ラクス・クライン」との逢瀬、「アスラン・ザラ」との確執、そして連合軍本部アラスカ基地「JOSH-A」の陥落、オーブ連合首長国への連合軍、Z A F T 両軍の侵攻、など挙げれば数限りない。

さらに影響はこれだけにあらず。ジャンク屋組合メンバー「ロウ・ギユール」が「アストレイ」と呼ばれるMSを発見したことにより、ジャンク屋組合の国際的知名度が上昇した。

また傭兵部隊「サーペントテール」のアストレイ所有も、傭兵の雇用条件改善など、大きな影響を与え、喜んだ傭兵達がいはいはずがない。

そして締めくくりとして、「第二次ヤキン・ドゥーエ攻防戦」において、ラクス・クラインを中心とする三隻同盟の介入、ブルーコスモス盟主ムルタ・アズラエル、プラント最高評議会議長パトリック・ザラ、そしてこの戦いを私欲のために利用したラウ・ル・クルーゼの戦死により、この波乱の戦いは連合とプラントの停戦条約「ユニウス条約」の締結で幕を閉じた。

この戦いにおいて、人的、経済的、政治的、軍事的、全面において多大なる損害を払ったのみならず、様々な改善と対策が諮られた。

まず軍事、ユニウス条約では、ミラージュコロイドステルス、ニュートロンジャマーキャンセラー（以降NJC）、核兵器、核動力の禁止が盛り込まれたので、プラントは「ニューミレニアムシリーズ」と銘打って、量産機ザクシリーズと「グフ」を開発、前主力のジンを大きく超えるスペックである。さらに「2nd Stage」と銘打って、いわゆる「ガンダム」を5機開発、ハイエンドエース専用機として使われるはずであった。一方で連合は、ストライカーパッケージ使用機の開発、量産を進めたり、モビルアーマーの新機開発を推し進めて質量共にプラントを圧倒している。

政治的变化では、連合は早急に赤道連合と汎ムスリム会議、そしてオーブ含む中立国取り込み、世界条約的枠組みで反プラント国家連合を立ち上げてしまった。プラントでは臨時議会が総辞職、代わりにギルバート・デユランダルを中心とする新評議会が発足された。

それだけでなく、この戦いですでに人口の半分が消えてなくなってしまうている。著者の私は、取材の中でエル・アラメインやカオシュンを見てきたが、その被害は尋常ではなかった。さらに南アメリカにも取材にいったが、そのころには独立戦争が発生しており、小さな村でも都市圏でも壊滅的被害があり、思わず見たくなくなってしまう程であった。

さてこの書に書かれていることは、まさにこのあとに起きた残念な戦いである。皆が皆信念という欲望に駆られて戦っている悲しい戦いである。

その中で私は一人の少年に出会った。彼は、生活のためにやむなく傭兵として戦っている。そんな彼と関わっているうちに、私はまさに、信念の浅はかさ、脆さ、嘘、偽りを知ってしまう。しかし、少年とともに、わずかな希望を追って生きていく、そして本当に伝えたいことを知るのだ。

この書はそんな内容である。できれば最後まで読んで頂きたい。そして、すこしでも、こんな戦争があったのか、二度と起こさない、そういうことを思っ頂きたい。そう思っ書いた。こんな傲慢な感じですまないが、よろしくお願いしたい。

パウルス・グラード